

団体名：（公財）兵庫県国際交流協会

1. 兵庫県における外国人住民の状況

兵庫県は、北は日本海、南は瀬戸内海の二つの海に接し、南北に長い県域を持ちます。瀬戸内海は重化学工業、中部から北部にかけては農林水産業が盛んな県です。

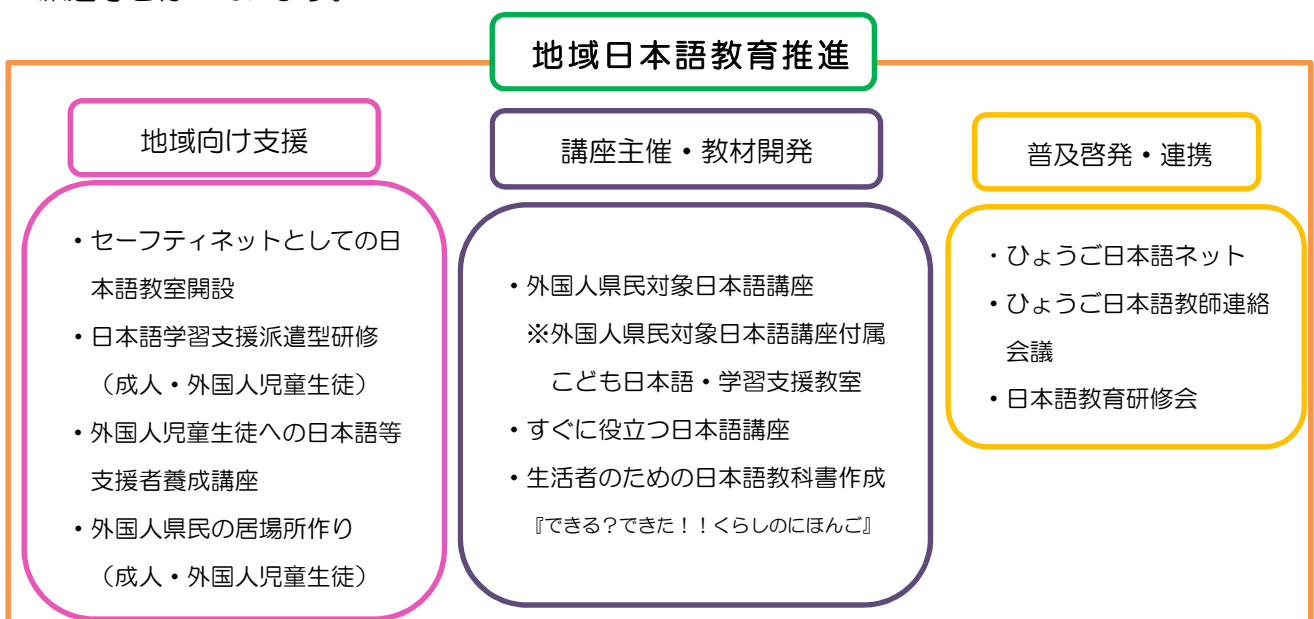
人口約553万人（H27. 1）のうち、在留外国人数は約9.6万人（H26. 12）で、全人口の約1.7%を占めます。国籍別は、韓国・朝鮮、中国、ベトナム、フィリピンの順で、近年の特徴としては韓国・朝鮮籍が減少する一方、ベトナム、フィリピン籍の増加率が高くなってきています。また、在留資格別には、留学生や研修生の受入れが進むとともに、一般永住者の伸び率が高く、永住、定住を前提とした在留者が増えてきています。



そのため、今後より一層外国人住民に対する多様な日本語学習支援や生活支援の必要性が高まり、地域全体で在留外国人を、一時的滞在者ではなく、地域を構成する一員として捉える必要があると言えます。

2. 公益財団法人兵庫県国際交流協会 日本語教育推進事業

平成2年の兵庫県国際交流協会設立と同時に、日本語教育推進事業が始まりました。現在、「地域向け支援」、「講座主催・教材開発」「普及啓発・連携」を大きな3つの柱として推進事業を行っています。具体的には、当協会と日本語教室空白地域の県内市町等が協働、連携し、日本語教室を立ち上げる事業、日本語講座の実施、生活者のための日本語教科書の作成、他団体にアドバイザー派遣等を行っています。



※外国人住民の生活支援相談（対応言語：中国語・英語・スペイン語・ポルトガル語）に関しては、当協会、外国人県民インフォメーションセンターで行っています。

日本語教育事業の概要

事業名	(公財) 兵庫県国際交流協会 地域日本語教育推進事業
地域課題	兵庫県には、平成 24 年度時点で、1 市 8 町の地域において日本語教室がなかった。そこで、平成 24 年度からそれらの地域に日本語教室開設事業を始めたが、日本語教室をとおして、災害時等いざというときに地域住民として皆が助け合える関係を作っていくことが日本語教室開設の大きな目的と同時に課題の一つであった。今後さらに県内全地域において、日本語教室や行政とのネットワークを深め、地域日本語教室のあり方や役割を共に考えていく必要があると考えている。
目指すこと	県内すべての地域に暮らす外国人住民が日本語教室や市町等の活動とつながりを持つことにより、安全に、安心して暮らせるようにする。また、すべての地域住民が地域社会に参加し、交流し、互いを知ることにより、それぞれの力を発揮し、共に地域を作っていけるよう推進する。
主な取組	<p>取組 1： 空白地域解消のためのセーフティネット整備に向けた取組</p> <p>名称：セーフティネットとしての日本語教室開設事業</p> <p>目的：平成 24 年度時点において、兵庫県内には 1 市 8 町の地域で日本語教室がなかった。地域の日本語教室は、日本語を学ぶ場としてだけではなく、外国人住民が安心して、安全に暮らしていくために大きな役割を果たすが、災害時の安否確認、助け合い等もその一つと言えるだろう。そのような、いざという時に地域日本語教室としての機能を果たすためには、日ごろの住民間の「つながり」や「互いを知る」ということが不可欠である。そこで、当協会では、日本語教室のない空白地域を解消するために市町と協働して、日本語教室開設事業を行っている。</p> <p>協働先：県内における日本語教室のない市町、社会福祉協議会、国際交流協会 日本語教室に関心を持つ地域住民等</p> <p>内容：当協会から日本語教室のない市町に、日本語教室の必要性を働きかけ、協働で日本語教室を開設する。主に以下の役割分担で日本語教室開設を推進していく。</p> <p>当協会：日本語学習支援ボランティア養成講座実施（10 時間）、 助成金（15 万円/年）日本語教室開設に関するノウハウ共有、サポート、 アドバイス、フォローアップ研修、 当事業で取組みを行う市町の合同研修会 等</p> <p>市町等：市町における外国人住民調査、学習者募集、支援者募集 開設後、日本語教室事務サポート等</p> <div style="text-align: center;"> <p>兵 庫 県 国 際 交 流 協 会</p> <p>日 本 語 教 室 設 置</p> <p>市 町 国 際 交 流 協 会 社 会 福 祉 協 議 会 等</p> <p>協 働</p> </div>

主な取組



《日本語学習支援ボランティア養成講座における近隣日本語教室との「つながり」の場》

ボランティア養成講座では、近隣の日本語教室の学習者さんと支援者さんがサポート。学習者さんには、外国語体験の先生をしていただいたり、体験談を話していただいたりします。支援者さんにはボランティアとしての心構えなどを話していただき、地域間交流を図ります。講座終了後、教室見学、交流会をサポートして下さることもあり、地域間のつながりができます。



《地域日本語教室開設》

各地域、市町、国際交流協会、社会福祉協議会、支援者さん等さまざまな方がかわり、地域住民による地域住民のための日本語教室が開設。

日本語を教える場に留まらず、地域住民が共に集える居場所の役割を果たすことも目指しています。



《フォローアップ研修》

フォローアップ研修では、地域日本語教室のあり方、運営方法、日本語学習支援の方法などを日本語教室と相談の上、様々なメニューで行います。日本語教室開設のための交流会の進め方をアドバイスしたり、サポートする機会を設けることもあります。



成果：平成27年9月末現在、1市、6町で日本語教室開設。2町で日本語学習支援ボランティア養成講座終了、日本語教室開設準備中。

地域における日本語教室の必要性が見えはじめ、試行錯誤の中、各地域、学習者の背景やニーズを意識した日本語教室運営、活動が展開されはじめている。一方で、各日本語教室に新たな課題も見えてきたので、今後、地域間のネットワークを深めるとともに、地域日本語教室と共に課題解決を図り、県内地域日本語教室の体制整備を推進していきたい。

主な取組

取組 2： 域内の日本語教育ネットワークの構築

名称：ひょうご日本語ネット

目的：阪神・淡路大震災の経験を踏まえて、同じ地域住民として共生する社会をつくり上げていくために、兵庫県内の日本語教育関係機関、日本語教師・日本語学習支援者グループ等が相互に情報を交換し、連携協力し合うとともに、関係機関及び行政とも協働・連携を図る。

内容：日本語教育機関、地域日本語教室、教育委員会、行政、国際交流協会等、現場で見えてくる課題に対し、月に一度のネットワーク会議で意見交換を行い、課題に対し、協働で研修会等を実施。

成果：さまざまな分野、立場からの意見が聞け、各現場での試みの参考になる。今年度共催した「やさしい日本語」研修会（神戸YWCA主催・ひょうご日本語ネット共催）では、地域日本語教室の支援者、日本語教師、学校関係者等さまざまな立場の参加があった。学校のお便りをやさしい日本語に換えるワークショップでは、互いの専門分野を駆使し、協力しながらのワークショップになり、新たな発見があった。

取組 3： 教材など学習支援ツールの整備

名称：生活場面における言語行動達成型教科書（当協会「すぐに役立つ日本語講座」使用）『できる?できた!! 暮らしのほんご』

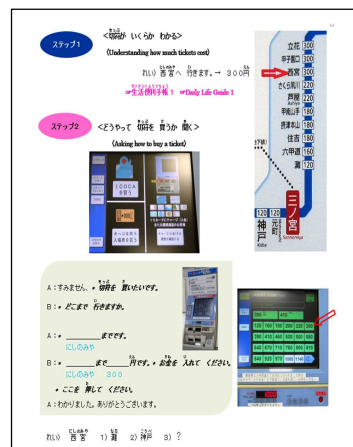
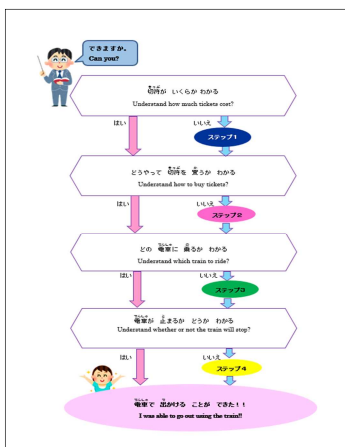
目的：在住外国人が日本で安全に安心して生活するには、日本語の習得が不可欠であるが、近年、日本で暮らす外国人住民の背景の多様化に伴い、実際の生活場面ですぐに生かせる日本語力がより求められている。そこで、生活上必要な課題を達成する力、対処力を養い、社会参加につながることを目的にした教科書を作成した。

対象：外国人県民。ひらがな・カタカナがわかること。初級前半レベル～。

<教科書の構成と内容> **「学んで! 知って! 行動する!」をモットーに!!!**

◆生活に必要な 10 の場面◆
人と知り合いになる／買い物／電車やバスの利用／郵便局・銀行の利用／パソコン入力／病気になったら／安全に暮らす／役所への届出／ごみ出しのルール／日本を楽しむ ※日本語の基本文型
◆各課 2 段階のレベルで構成◆
学習者に合わせてレベルもトピックも選べる
◆対訳つき◆
英語版・中国語版※来年度、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語対応予定
◆生活知識や兵庫県の地域情報を掲載◆
生活に密着した情報を知るだけでなく、調べる方法を学ぶ
◆学習者自身が記入する「わたしの日本語チェックシート」◆
学習を振り返り、自律学習、継続的学習へ

主な取組



「できる?」⇒ いいえ ⇒ ステップで課題達成!!

兵庫県国際交流協会 HPからどなたでもダウンロードしていただけます。
<http://www.hyogo-ip.or.jp/jptext/>

地域の変化

セーフティネットとしての日本語教室開設事業を開始し、3年経ったが、各地域がそれぞれ特色を活かした日本語学習支援や交流活動、多文化共生理解を深める取組みを行っている。一つの日本語教室から地域全体へと広がりはじめているように思う。また、既存の日本語教室との協力関係ができ、近隣地域での連携も深まりつつある。

今年の取組

《セーフティネットとしての日本語教室開設地域による合同研修会》
 4年目に入った今年度、初めて「セーフティネットとしての日本語教室開設」地域による合同研修会を行った。事前に日本語教室の支援者や行政の皆さんで課題の洗い出し等を行い、立ち上げてからの日本語教室を振り返った。当日は、各日本語教室の紹介、ワークショップでは、現在の課題や地域日本語教室の可能性を支援者、行政の方と共有した。参加者からは「他の日本語教室、行政とのつながりを持つことができた」「自分たちの日本語教室の振り返りができた」という声が挙がった。また、この研修会を機に近隣地域でのネットワークもでき、今後は近隣地域での研修会、また行政等だけの研修会も行ってほしいなど積極的な意見が聞かれた。



皆さんへ一言

一步を踏み出すと、さまざまな「つながり」ができ、外国人住民、日本人住民、行政、自治体等、皆の力が新たに何かを始める原動力になると感じています。他地域の皆さんとも連携し、さらなる一步を踏み出したいと考えています。